

888  
PORTABLE PRODUCTION MIXER-RECORDER

SOUND  DEVICES

# 888 ビギナーズガイド



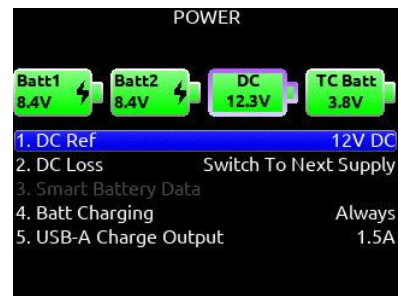
FW Ver.7.40  
2021/01/27

 日本テックトラスト株式会社

## 電源

TA-4 電源入力端子が1つあり、装着されたバッテリーより優先的に使用されます。対応する電圧は、10-18VDC です。純正の AC アダプターは、12V/5A です。

TA-4 コネクターに外部バッテリーから給電する場合は、Menu > Power 設定で、Batt Charging を Disabled と設定してください。



## 工場出荷時設定にもどすには

Menu > Quick Setup > Load Factory Settings で工場出荷時設定に戻ります。これを実行するとシステム時計が GMT に設定されるので、日本時間 (+9:00) に設定してください。



## 入力設定画面

インプットチャンネルに関する設定、例えば HPF、ファンタム電源、イコライザー、ルーティング…などを行うには、設定したいチャンネル(1-8)に該当する PFL スイッチを操作します。

9Ch 以降にアクセスする場合は、\*/\*\*ショートカットトグルと併用してください。例えば Ch9 には、\*+ PFL1、でアクセスできます。



チャンネルアクセスのショートカット操作 (\*/\*\*トグルを左操作)

Ch 9	Ch 10	Ch 11	Ch 12
* + PFL1	* + PFL2	* + PFL3	* + PFL4

ファンタム電源を On するには、入力設定画面に入り、Input Source 設定のサブ画面に入ります。ここで、ソフトウェアスイッチの Rtn/Fav トグルスイッチで "48V Phantom" を青色に変更するとファンタム電源が入ります。

Mic / Line の切替も同様に、サブ画面に入って、ソフトウェアスイッチの Mic/Tone トグルスイッチで操作してください。



## ヘッドフォンモニター

ヘッドフォン音量は、画面右に位置する HP エンコーダで調整できます。ヘッドフォンソースは HP ノブを押して画面にポップアップ表示されたリストから選択できます。

左側面の X7/X8 出力(3.5mm)は、ヘッドフォンをドライブする能力があり、デフォルトで HP ソースがアサインされているので、右側面の 6.3mm ヘッドフォン出力と併用することができます。

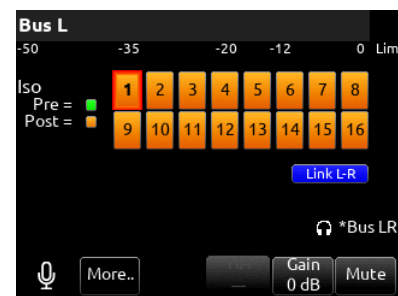


## LR ミックス・バス

デフォルトではインプットチャンネル 1-16 がすべて Post Fader 送りで L&R ステレオバスにルーティングされています。

パンニングは入力設定画面の表示中にトグルスイッチで調整できます。\*/\*\*トグルスイッチで、L/C/R のハードパンニングを簡単に設定できます。

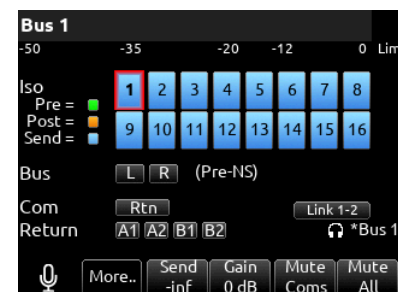
パンニング微調整は、Select ノブ + \*/\*\*で操作できます。



## Bus ミックス (1-8)

Bus1-8 のオーディオソースは、バスセンドゲインを経由したインプットチャンネルに設定できるのに加え、L&R ステレオバスも設定(ミックス)できます。

合計 8 個ある Bus1-8 のうち、録音できるのは Bus1&2 だけです。Bus3-8 は、オーディオソースとして、L&R ミックスだけでなく、Bus1&2 も設定できます。



## アナログ出力

デフォルトの L-Out XLR 出力は Bus-L がソースとして設定されています。TA-3、3.5mm ジャックの各アナログ出力(X1-X6) はそれぞれ Bus1-6 がソースとして設定されています。これら出力のソースはユーザーによってカスタマイズ可能です。



## 録音するには

### メディアの準備

内蔵 256GB SSD の他に、2 枚の SD カードに録音することができます。SD カードを初めて 888 で使用する場合は、次の方法で SD カードをフォーマットしてください。*Menu > Files > Erase/Format SD1* または *SD2* を選択し、Format SD!? と表示されたら OK を選択します。メディアは exFAT 形式でフォーマットされます。



MEDIA		
SSD : 888 SSD	Free:	209GB/43h25
	Size:	209GB
SD1 : 888 SD	Free:	830MB/0h10
	Size:	842MB
SD2 : <No Media>	Free:	—/—
	Size:	—

### WAV ファイル

*Menu > Record/Play > Track To media Routing* 画面では、1 つの WAV ファイルが格納するトラック数(シングルかマルチか)を設定することもできます。Mono(緑色)に設定するとトラック数と同じ数の WAV ファイルが 1 テイクごとに作成されます。Poly(青)に設定すると該当するすべてのトラックが 1 つの WAV ファイルに格納されます。

同画面で Rtn/Fav スイッチで、Wav Format を RF64 か BWF を選択できます。RF64 は 4GB 以上の WAV ファイルを作成できますが、4GB 未満の録音では自動的に BWF で保存されます。



TRACK TO MEDIA ROUTING			
SSD:	ISO	L/R	Bus1/2 ALL
SD1:	ISO	L/R	Bus1/2 ALL
SD2:	ISO	L/R	Bus1/2 ALL
Mono = <span style="color: green;">■</span> Poly = <span style="color: blue;">■</span> AAC = <span style="color: orange;">■</span>			

## 7-3. トラック・アーミング

レベルメーター画面で、L,R やトラックの数字が赤い四角で表示されていると録音されます。(右図では、Track 1,2,3,4,7,8 がアームされています。)

アーム/アーム解除の切替は **Select + Meter** で設定できます。

888 はトラック・アーミング設定を録音継続したまま変更することができます。録音中に、**Meter ボタン** を押しながら **Select ノブ** を押し込んで回すと、複数トラックのアーム設定を反転させることができます。(録音中に操作すると、WAV ファイルは自動的にスプリットされます。)

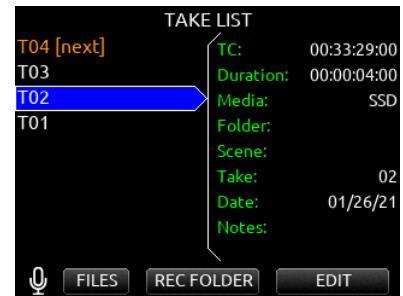


## 7-5. Take List

録音されたテイクは、Take List で管理されます。**Menu + HP** で画面に Take List を表示させると、ここで過去のテイクを閲覧・編集することができます。

Take List 画面の一番上に [next] と表示されているのは次のテイクに関する情報です。トグルスイッチで EDIT するとシーンネーム、プロジェクトネーム、トラックネームを設定することができます。

過去に録音されたテイクを EDIT で削除 (Delete) すると、そのテイク (WAV ファイル) は同メディアの TRASH フォルダに移動されます。TRASH を空にするには、FILES オプションで該当するフォルダにカーソルを当てた状態で **OPTIONS > Empty Trash** を実行します。



## 7-6. フォルダとトラックネーム

### 7-6-1. フォルダ

デフォルトでは、WAV ファイルはメディアのルートディレクトリに保存されます。設定によりプロジェクト名や日付、あるいは任意のフォルダ名に自動的に格納することもできます。

フォルダ設定は、**Menu + HP** で Take List を表示し、テイクリスト画面の下にある REC FOLDER から設定できます。**NEW** を操作して新規フォルダのタイプを選択できます。オプションは、None, Custom, Project, Daily です。

フォルダは最大で 3 階層まで設定することができます。例えば、Custom フォルダ (例えばユーザーの名前) の中に、Project フォルダ、その中に Daily フォルダを作成して、WAV ファイルを保存することができます。

